

病理専門医制度運営委員会だより（第 6 号）

1. 病理専門医資格更新に関する重要なお知らせ：

本年度（2016 年秋）に更新を迎える病理専門医の皆様への重要なお知らせです。本年度も専門医資格更新には専門医機構の認定による更新と、従来の病理学会認定による更新と二通りの更新方法があります。更新の手順などについては、昨年 4 月に皆様にお送りしました文書一式を再確認していただきたいと思ひます。なお、昨年度の更新手続きでは、対象者の約 85% が専門医機構の認定更新、約 15% が病理学会の認定更新手続きをされました。どちらを選んでいただいても結構ですが、可能な限り専門医機構による新しい病理専門医資格更新基準のもとで申請手続きをしていただきたいと思います。

専門医機構による病理専門医更新を行うには、専門医機構発足前の平成 27 年 3 月末までの「病理学会」による点数と、平成 27 年 4 月以降の「専門医機構」による単位の両者のミックスで更新手続きをしていただくことになっています。具体的に説明しますと、本年度（平成 28 年秋）に更新手続きをされる先生方は、「病理学会として 3.5 年分と専門医機構として 1.5 年分」の単位が必要とされています。このため、病理学会分として平成 27 年 3 月末までの合計で 100 点×3.5 / 5 年の 70 点が必要で、専門医機構分は平成 27 年 4 月以降のもので 50 単位×1.5 / 5 年の 15 単位が必要となります。病理学会分は従来の計算方式で、例えば病理学会総会出席が 20 点 / 1 回、支部会出席が 10 点 / 1 回です。その他の学会や研究会の出席点数については HP などをご参考にしてください。専門医機構分は ① 診療実績として最小 2 単位（最大 4 単位）、② 専門医共通講習は最小 1 単位（最大 4 単位、ただしこの 1~4 単位には後述の必修 3 つのうち、少なくとも 1 単位が含まれている必要があります）、③ 病理領域講習が最小 3 単位、④ 学術業績・診療以外の活動実績が最小 0 単位（最大 4 単位）で、①~④の合計で 15 単位が必要となります。なお、過去に 5 回以上の専門医更新実績のある先生方は ① の診療実績は 0 単位でも大丈夫ですが（その分の単位を領域別講習で補う）、合計単位はやはり 15 単位必要です。

病理学会分の点数確認には、学会の参加証が必要ですが、参加証は必ず記名したもので、かつ名札部分と領収書部分を切り離さずに提出していただく必要があります。専門医機構分の各種講習会参加証は、各講習会の会場で配布されますので、専門医番号と氏名を記載したうえで更新時まで各自で確実に保管してください。

専門医機構の更新審査は移行期であるため病理学会分の点数と専門医機構分の単位など、いろいろと理解しづらいこともあったように思われました。これに対してより簡単に理解しや

すい説明書（申請手続き解説書）を作成する予定です。本年度以降に更新を迎える先生方は、この解説書（所得税の確定申告案内のような、多くの方にわかりやすい解説書にする予定です）を参考に手続きをしていただきたいと思います。

前号までの繰り返しとなりますが、専門医機構による専門医更新には「専門医共通講習」の受講（5 年間で 5 単位以上）が必要です。このうち「医療安全」「医療倫理」「感染対策」の 3 つは必修です。この 3 つの必修講習は、仙台で開催されます次回の病理学会総会で、3 日目（5 月 14 日）の午後にまとめて（連続して）開催される予定になっていますので、プログラムの確認をお願いします。なお専門医共通講習については、病理学会より認定されている施設（認定施設と登録施設、今後は基幹施設と連携施設）で行われたものや、他学会（現時点では基本的診療領域）で開催されたものでも代用可能です。この場合、施設長や学会主催者が発行した受講証が必要となります。「領域別専門講習会」については、病理学会主催の学術総会における、指定された講習会（臓器別診断講習会など）が対象となります。こちらは専門医共通講習と異なり、各施設における講習会や他学会の講習会はクレジットの対象にはなりませんので、ご理解ください。

なお、従来よりお願いしてまいりましたが、資格更新の保留状態になっている先生方は、この文章を含め、専門医に関する情報から離れている可能性があります。お近くにそのような先生が見えた場合は、是非新しい専門医に関する情報を教えていただきたいと思います。

2. 病理専門医研修施設と研修プログラムについて：

基幹施設を中心とした新しいプログラムを準備していただき有難うございました。プログラム作成も初めてのことであり、何かと困難が多かったことと思われまふ。担当された諸先生方に改めて深謝申し上げます。事前審査で気づいた点、特に記載ミスの多かった点につき解説させていただきます。プログラムの定員上限の計算方式で誤解がいくつか見受けられました。定員は指導医数と症例数（病理領域の場合は剖検数）の両方で規定されます。指導医は 1 名あたり最大 2 名の専攻医を指導できる（3 学年で 2 名指導できる）ので、プログラム全体の指導医数×2/3 が専攻医定員上限数となります。一方、剖検数ですが、専攻医 1 名が 3 年間で 30 例経験していただくためには、毎年平均 10 例の剖検が必要です。しかしながら、専攻医は 3 学年（毎学年）いると想定されているため、10 例の 3 学年分、すなわち 30 例が毎年必要とされる剖検数となります。従いまして、剖検数による専攻医定員上限数は、剖検例を 30 で割った数値（切り捨て）となります。プログラム全体の剖検例が 30~59 例では専攻医定員上限数は 1 名、60~89 例では専攻医定員上限

数は2名、90～119例では専攻医定員上限数は3名、120～149例では専攻医定員上限数は4名ということになります。なお、プログラム全体の剖検例が30例未満であると、症例数不足のためプログラムは認められませんのでご注意ください。また記載漏れもいくつか見られ、特に連携施設における専攻医の研修記録保管方法の記載漏れが多く見られたようです。ご注意ください。こちらにも今回いただきましたいろいろな質問をまとめて、Q&Aとして病理学会のHP（会員専用）にアップしていく予定です。これらのご参考の上、各研修病院群で話し合いをされ、一人でも多くの病理専攻医の受入れができるように、また病理希望者が専攻医になれないような事態を防ぐために、皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

3. 専攻医採用について：

専門医機構の準備が遅れ気味になっているため、現時点で確定的な日程をお知らせすることはできませんが、平成28年3月末までにプログラムの応募を受け付け、各プログラムの了承が得られるのは6月が予想されます。その後、全国の2年次研修医に向けて全プログラムが公開され、研修医は希望する専門プログラムを一つだけ選び、応募することになります。複数のプログラムへの応募は認められていません。各プログラムによる専攻し採用試験は日程が統一される予定です。病理学会としては9月11日を想定していますが、今後、専門医機構の意向などで日程が変わる可能性もあります。採用試験は、病理領域の場合面接が主になると思われ、必要に応じて筆記試験などを追加することになります。9月の採用試験で望むプログラムに採用されなかった研修医は、10月に行われる二次募集に臨み、こちらでもプログラムを一つ選んで応募し、統一された試験日に採用試験を受けることになります。10月でも採用されなかった場合は11月にも同様の手続きが行われる予定です。

4. 今後の日程について：

- ・第105回日本病理学会総会の最終日、平成28年5月14日(土)に仙台国際センターで「専門医共通講習会（医療安全）（医療倫理）（感染対策）」が行われます。主会場のほか、サテライト会場でも講習会は受講できますので、多くの専門医の方の出席をお待ちしています。
- ・平成28年度病理専門医試験は、平成28年8月6-7日に東邦大学で行われます。
- ・現在の1年次初期臨床研修医に対する専門研修プログラム選択と採用試験（1回目）は、平成28年9月に行われる予定です。

（文責：黒田誠・北川昌伸・清水道生・村田哲也）

==特集① お酒と私=====
私と日本酒

昭和大学医学部臨床病理診断学講座 矢持 淑子
父が日本酒好きということもあり、今でもお酒の中で一番好

きで、また私にとってお酒の中でも翌日までほとんど残ることがなく気軽に飲むことができるのが日本酒である。さらに銘柄でのむわけではなく、そのときの気分で楽しく飲みたい派である。学生時代は痛飲した思い出もいくつかあるが、なぜか、周りからは“わく”（“ざる”の網目すらない）という呼び名を頂戴していた。卒業後、私が昭和大学第二病理学教室に入局した当時、教授は風間和男先生で、先生は新潟県のご出身であった。新潟県と言えば、有数の日本酒どころ、さぞや…とお聞きすると、「いや、私は飲めないんだ」（いや、それなりにたしなんでらっしゃいましたが）。ただ、「私は飲めないが、おすすめする日本酒があるとすれば、「メ張鶴」だな。水のごとしなんていうものはいけない、日本酒としての味が無いと。」と薦められ、すっきり系日本酒が人気だった当時、ちょっと意外だな、と思ったことを覚えている。その当時の教室の医局旅行と言え、どこにいても日本酒を一升瓶ごと持ち込むことは当たり前で、もちろん風間先生の差し入れて新潟県の有名な日本酒が各種そろい、教授おすすめの日本酒も加わっていた。それが余ると、「君、持って帰っていいからね。」かばんに入るはずもなく、それでもおいしいお酒を捨てきれず、うら若き乙女(?)が次の日の真っ昼間にそのまま飲みかけの一升瓶をかかえて電車で帰るといことも何度かやった。その後、ずいぶんと月日は経つが、飲む機会に「メ張鶴」に出会うたび、風間先生に薦められたことを思い起こしながら、真っ先に注文し、さらには周りの学生達にもうんちくのように同じことを申し述べている。

先日、風間先生のご子息とお会いする機会があった。ご子息と日本酒と言えやっばり「メ張鶴」、というところで話が落ち着いたのだが、実は風間先生ご自身からご子息へすすめたのではなく、私を介して、ご子息は風間先生が薦めていた「メ張鶴」を知ったのだという。「親父とそんな話、しなかったからなあ…」としみじみとおっしゃっており、父と息子の奥深さか…と思っていたが、そういえば私も父と日本酒談義なんてしたことがないことに気がついた。早速、好きな銘柄でも聞いてみるか、と電話をしてみると、母が「今日は飲み会でいないのよ…」当分は宿題となりそうである。

医学生だった頃、那覇での暑い午後

焼津市立総合病院 病理診断科 久力 権
土曜日の授業を抜け出して、昼前には待ち合わせたレストランに着いた。目の前は観光客が絶対に訪れない磯浜だが、白い海岸を意味するらしいスペイン語の名前のレストランの2階からは、いつでも、きれいな海が遠くに見えた。

「このパスタが絶品なのよ。」そして、オリオンビールを少しだけ。

同級生や教官と鉢合わせする前に、店を出て街に戻った。よく晴れた昼下がり、観光客に混じって通りのブルーシールでウ

べと紅イモのアイスクリームを選ぶと、映画館へと並んで歩いた。何を見たかは忘れたけれど、涼しい映画館ではパドワイザーを一杯だけ。

夕方、映画館を出ると牧志まで歩いて二人でいつもの山羊屋に入り、愛想と威勢のいいお姐さんにヨモギのたっぷり入った山羊汁を頼んだ。そして、菊之露の古酒を抱瓶（だちびん）で少しだけ…だったと思う。

今はすっかり観光客相手になってしまったけれど、大学に入學した4月に、先輩にこの山羊料理屋に連れて行かれて、「毎月一度は、ここで山羊を食べるように」と言われた。そして、ぼくは、それを守った。国家試験の時もここで夕食を摂った。

そういえば、久茂地にワインバーができたんだ。ポリクリ仲間と先週、合コンの前に飲みに行ったが、どうして、そこで合コンをしなかったのかは忘れた。そうだ、ワインバーに行こう。まだまだ、宵の口って言うか、昼間は暑いし、この街では宴会が始まって人も集まりだすのは、夜の10時を回ってからだ。夜は、まだ、始まっていない。

まだ明るい通りを久茂地まで引き返し、通りから外れた裏路地に入るとコジャレたビルが建っていた。2階に開店したばかりのワインバーがあり、ほとんど客はいない。

若いぼくにはワインの銘柄なんてわからないので、甘いワインを頼んだら、よく冷えたブラックタワーを勧められた。チーズにサラダ、それに山羊肉の刺身を頼んで、乾杯！

「ワイン、そんなに好きだったけ?」「だって、おいしいじゃない。」

（ブラックタワーは、数年後、自治医大で学位取得したお祝いに、研修医時代にお世話になった沖縄県立中部病院ハワイ大学事務所の担当官からも贈られた。）

珍しく酔いを顔に出した彼女を家の前でタクシーから降ろすと、ぼくは満たされた気分で、涼しくなった通りを歩いた。今日という日の午後が名残惜しい。まだ、0時は回っていない。ぼくの階下に住む後輩の冷蔵庫には、冷えたコロナビールがあったはずだ。安物の薩摩白波といちこ、それに久米仙のグリーンボトルもそこらへんに転がっているに違いない。

しかし、後日、この晩のことをぼくは後悔することになる。結局、彼女は、車を降りた直後、玄関前で山羊肉と多量の白ワインで満たされた胃袋をすっかり空にして、眠り込んでしまったらしい。敷居は急にそびえ立ち、ぼくと玄関との距離を縮めるのには、さらに2年もの時間を必要とした。

鳥を離れる前に将来の義父をあのレストランに誘った。今度こそ、オリオンビールをピルスナーグラスで少しだけ。大きなお願いの後、酔いが回る前に、小さなウソもすこしだけ。

私とお酒

大阪労災病院 病理診断科 三輪 秀明

私は59歳、男性、病理専門医歴13年です。酒歴は40年近くでいろいろ試しましたが、強いお酒はつい飲みすぎてしまうので、今はビールがメインでベルギー産をほぼ毎日350ml缶3~4本飲んでます。健康状態は、定期健診ではいつも中性脂肪高値+メタボで要精査あるいは要治療と判定されますが、特に大病の既往や体調不良もなく、歯周病で職場の歯科を月一度受診する以外は受診していません。よって厳格な内科医から守り難い生活習慣改善の指導を受けることなく、毎日お酒を楽しんでいます。

さてお酒の上での失敗となると枚挙にいとまがありません。電車の乗り過ごしや忘れ物をはじめ、電柱にぶつかって顔を怪我したりホームから落ちて鎖骨を骨折したこともあります。特につらいのは、休日でひどい二日酔いの時の病理解剖です。一人病理医の皆様ならお分かりと思いますが、ただでさえ病院に行くのが億劫なのに、体調不良でこのまま寝たいと思っている時に病院から呼び出されるとウツになります。まして開頭が加わっていたりするといっそうげんなりします。病理解剖数が減少してきた昨今では、内科の研修施設認定維持のために病理解剖の確保が重要となっており、断って解剖数の不足はお前のせいだと言われたくないの、運が悪かったとなげきつつ気力を振り絞って病院に行くことになります。そんな時、解剖を依頼してきた臨床の研修医が要領を得ないことを言ったりすると腹が立って思わず声を荒げてしまう時もありますし、もはや死因を解明しようという高邁な意気込みも研修医を育てる熱意も失ってしまいます。ただそんな気持でも、いざ始めると熱中して有意所見を見つけた時には達成感とともに歓喜も生じ、解剖が終わる頃には二日酔いも治ってしまっています。まああまり頻繁にあつて欲しくはない状況ですが。

お酒のメリットはまたたくさんあります。一人で飲むお酒では、仕事を終えてくたびれて帰宅した時の一杯は、何物にも代えがたい解放感を与えてくれますし、時間をかけなければならぬ問題を考える時には、思考を持続するのに役に立ちます。また直接仕事とは関係のない医学知識を適当に吸収する際にも、精神的負担を軽減してくれます。他人と飲むお酒は、何といっても意思疎通の円滑化に役立ちます。医師はお互い日常業務で多忙ですし、規模の大きい職場では年に1~2度しか顔を会わせない医療職もいます。そんな間柄のコミュニケーションをとるのに有用です。お互い腹を割って本音を話すきっかけになります。もちろん相手に無理強いをしないよう心がけています。

病理医とは敵も味方もない孤独な職業なので、医学への情熱を失わず一定の精神の安定を保ちつつ自己啓発を継続することが大切だと思います。私はまだしばらくはお酒が飲めそうなので、上手に飲んで仕事に人生に大いに役立てたいと思います。

私とお酒

島根大学医学部病態病理学 並河 徹

アルコール代謝はアルコール脱水酵素（ADH）とアルデヒド脱水酵素（ALDH）によって行われているが、これらの酵素には遺伝子多型が存在していて、特にALDH2の酵素活性がなくなるタイプの遺伝子型が日本人に多く、これが「下戸」が日本人に多い原因だと言われているのは有名な話だ（ヨーロッパ系の人ではこの多型は殆どない）。ALDH2の活性が低いということは、お酒を飲んだ時にアルデヒドが溜まりやすい、ということになり、多分二日酔いになりやすいのではないかと思う（これは私の勝手な解釈ですが）。

世の中には、1) お酒をいくら飲んでもまったく乱れず二日酔いにもならない酒豪タイプ、2) お酒を飲むと人事不省になって周りに迷惑をかけるのだが、翌日はけろっとして二日酔いなどこ吹く風というタイプ（しかも前夜迷惑をかけたことは覚えてない!）、3) ほどほどに飲めるのだけど、特に酔っ払って意識がなくなるほどには飲めず、しかも翌日は酷い二日酔いに悩まされるタイプ、4) 全く飲めないタイプ、の4つに分類出来そうである。

ADH、ALDH活性の事を考えると、タイプ1は両方高い活性があり、タイプ2ではADH活性はやや低いがALDH活性は高い、タイプ3はADH活性は結構あるがALDH活性は低い、タイプ4は両方低い（あるいはどちらかの活性がまったくなく）、と言う解釈が出来そうだ（これも科学的根拠はありませんので、学会などでそんなことは言わないでください）。

皆さんはどのタイプになるだろう。私は多分「タイプ3」で、ちょっと飲み過ぎるとすぐ酷い二日酔いになってしまう。酔っ払った友人を連れて帰って、友人は翌日平気な顔しているのに、こちらは二日酔い…というのがおきまりのパターンであった。いってみれば「酔わないのにしっかり二日酔いにはなる」という最も損なタイプということになる。

私が病理の手ほどきを受けた先生は大変お酒が強い人で（勿論大好き）、週に必ず一度は夜の9時頃から深夜2時頃まで数人で飲みに行っていた。そのときにいつも言われたのは、どんなに酷い二日酔いでも必ず（這ってでも）8時半に来て「おはようございます」とみんなに挨拶しなさい、その後は1日寝ていてもよい、ということであった。多分これを実践した回数は私が第1位ではなかったかと思っている。

お酒と一緒に飲む、というのは、世界共通のコミュニケーション手段である。自分の適量をわきまえつつ「大人の飲み方」ができるようになると、人とのつながりをぐっと広げ、深めることも可能になると思う。若い先生方も上の先生に誘われたら（嫌だなと思っても）、にっこり笑って「お供します」と言ってください。きっと面白いお話、深いお話を聞けますよ。

お酒と私

九州大学病院 研修医 江夏 悠介

「完成したと思うな。進化は、そこからだ。」

アン・サリーの素敵な歌声と共に1人の実業家の姿が映し出される。九州ではお馴染みのCMだがご存知だろうか。某大手焼酎メーカーの創業者がボヤッと現れるのをみて、なにやら気恥ずかしさすら感じる。かの創業者が私の曾祖父であることを知る大学の友人はちよび髭を生やせと冗談をとぼすが、私が真似して髭をのばしたところで口角ばかりが伸び、残念ながら怪しい中国人にしか見えない。

私とお酒との出会いは驚きで始まった。

当時私は小学校に上がったばかりだっただろうか、祖父がふざけ半分に「元気の出るお湯」と言って飲ませたのを覚えている。おそらくあれは黒霧島であっただろう。悪くない気持ちであった。スイスイ飲む私に祖父がこれまた驚きの表情を向けたことを覚えている。

その後、私から酒の匂いがしたことで母に祖父がこっぴどく叱られていたことは言うまでもない。

2度目にお酒と向かい合ったのは20歳での頃、浪人生活中に一度だけ父親の晩酌に付き合わされたのが私とお酒の久方ぶりの再会であった。これもまた黒霧島であったが、幼少期の方が感動(?)が大きかったのは不思議な事だ。その時は結果的に酷い二日酔いに悩まされた。しかし今回は酒の匂いがしてこっぴどく叱られたのは私であった。こんな理不尽があるだろうか？ 父親はテヘペロとでも言いたげな顔をしていた。許すまじ!! と冗談ながらに思ったのも良い思い出である。

お酒にまつわる思い出は誰かが怒られている思い出ばかりである。大学の飲み会では誰かが裸になって店に怒られたり、酒の勢いで思ったことを言って同期に怒られたり。しかし、だからこそ楽しい思い出になる。綺麗に飲むのも大事だが、時には羽目を外してみるのも楽しい。今後もお酒との付き合い方は変わらないだろうが、その中で少しずつ大人の飲み方を身につけていければと思う。

曾祖父のような酒の味の分かる、ちよび髭の似合う老人になりたいものである。そして、晩年にさしかかった折には孫に「元気の出るお湯」を無責任に飲ませたいものである。

==特集② 私の恩師=====
わが恩師：高橋 潔 先生

新潟医療センター 病理診断科 内藤 眞

高橋潔先生は昭和34年に福島医大を卒業後、病理学第一講座に入られ、網内系研究の第一人者小島瑞教授の下で活躍されました。昭和56年に熊本大学医学部教授に昇任し、平成12年3月に退職するまで40年の永きにわたって病理学の教育、研究に熱情を注ぎ、後進の育成に尽力してこられました。

高橋先生は代謝性疾患の検討からマクロファージの代謝異常における重要性を実証し、それを基盤として“マクロファージの起原、発生、分化、増殖と疾病における役割に関する研究”をライフ・ワークとして研究しました。高橋先生の著書、原著は526編を数えます。後進の育成にも力を注ぎ、6名の教授を輩出しました。昭和56年から平成12年まで水俣病認定申請者の剖検を担当し、熊本県水俣病病理解剖検討会委員を務められました。

私が福島医大4年生の時、大学紛争が勃発して学生はストライキに突入しました。学内が騒然とした中で、高橋先生ははじめ病理の先生方が毅然とした態度で研究を続ける姿勢に感銘を受けて私は病理に出入りするようになり、卒業後は病理に入局しました。高橋先生に抄録や論文を提出すると、どんなに忙しくても翌日には自分の字が残っていないくらい校正の朱文字に埋まった原稿が戻ってきました。大学院を修了し、留学を経て私は郡山市の太田総合病院に病理医として勤務しました。幸いなことに病院に電子顕微鏡を入れてもらい、高橋先生が収集された症例の電顕観察を分担しました。6年間の勤務中に幾つか論文を出すことができ、熊本大学教授に転出された高橋先生に招かれました。熊本ではマクロファージの分化機構やスカベンジャー受容体の研究に従事しました。高橋先生は明るいお人柄で、ユーモアを交えて懇切丁寧に指導くださいましたが、決して妥協しない厳しい態度で研究に臨まれる姿は研究者の手本でした。平成4年秋に私は新潟大学医学部第二病理の教授に迎えられるました。この時、高橋先生は翌年春の宿題報告の準備に追われていました。そんな時に転出するのは大変心苦しいことでしたが、高橋先生は「後のことは心配しないで、教室作りに全力をあげなさい」と快く送り出してくださいました。

永年にわたる教育、研究、学会活動、地域社会への功績により高橋先生は平成26年度秋の叙勲において瑞宝中綬章を受章されました。高橋先生は傘寿を迎えられましたが、益々お元気にご活躍下さいますようお願いしております。

==支部報告=====

--北海道支部-----

北海道支部編集委員 深澤 雄一郎

学術活動報告

第173回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が深澤雄一郎先生（市立札幌病院病理診断科）のお世話で2016年1月30日（土）、市立札幌病院講堂において行われました。検討された症例は以下のとおりです。

番号 / 発表者（所属） / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名（主なもの） / 臨床診断 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断

15-13: 立野正敏¹, 近江 亮², 青木直子³, 柳内 充⁴ / 釧路日赤病院病理診断科, ²同外科, ³旭川医科大学病理学講座, ⁴市立札幌病院病理診断科 /

60歳代 / 女性 / 睪 / 限局性腫瘍形成を示した睪病変 / Type 1 autoimmune pancreatitis

15-14: 立野正敏¹, 近江 亮², 青木直子³, 柳内 充⁴ / 釧路日赤病院病理診断科, ²同外科, ³旭川医科大学病理学講座, ⁴市立札幌病院病理診断科 / 60歳代 / 女性 / 回盲部 / 睪腫瘍患者に診られた回盲腫瘍 / Florid reactive lymphoid hyperplasia

15-15: 清水亜衣^{1,2,3}, 高橋利幸² / 北海道消化器科病院病理部, ²KKR札幌医療センター病理診断科, ³北海道大学病院病理診断科 / 70歳代 / 男性 / 胃 / 特徴的な肉眼, 組織形態を呈した胃癌 / EBV-associated carcinoma, mixed adenoneuroendocrine carcinoma

15-16: 鹿野 哲, 松田玲奈, 伊藤真理子, 八代真一, 佐々木豊 / 勤医協中央病院病理科 / 60歳代 / 男性 / 精索 / 精索近傍に発生した間葉系腫瘍 / Angiomyofibroblastoma-like tumor of the male genital tract

15-17: 大内知之¹, 北村哲也^{1,2}, 高後友之³, 山下徹郎³, 武内利直¹ / 恵徳会札幌病院病理診断科, ²北海道大学院歯学研究所口腔病理態学研究室, ³恵徳会札幌病院歯科口腔外科 / 60歳代 / 女性 / 耳下腺 / 興味深い進展様式を示した耳下腺腫瘍の一例 / Salivary duct carcinoma in situ

15-18: 牧田啓史, 大塚紀幸, 外丸詩野 / 北海道大学院医研究科分子病理 / 70歳代 / 女性 / 腎 / 腎腫瘍の一例 / Mucinous tubular and spindle cell carcinoma

15-20: 今本鉄平¹, 畑中佳奈子¹, 後藤田裕子², 岩口佳史², 橋口淳一³, 松野吉宏¹ / 北海道大学病院病理診断科, ²札幌厚生病院病理診断科, ³北海道大学病院血液内科 / 60歳代 / 男性 / リンパ節 / Hodgkin lymphoma-like Adult T-cell lymphoma / Leukemia と考えられた1例 / Hodgkin lymphoma-like Adult T-cell lymphoma / Leukemia

集会では、釧路赤十字病院病理診断科 立野正敏先生により「病理解剖でみられる腎病理腎」と題する教育講演がおこなわれました。

第10回 Lymphoma Clinico-Pathology Conference が、2016年2月6日（土）、

北海道大学・医学部学友会館において行われました。

テーマは「Mantle cell lymphoma」でした。

第174回日本病理学会北海道支部学術集会（標本交見会）が深澤雄一郎先生（市立札幌病院病理診断科）のお世話で2016年3月12日（土）、市立札幌病院講堂において行われました。検討された症例は以下のとおりです。

15-19: 玉川 進¹, 西川祐司² / 旭川医療センター病理, ²旭川医科大学病理学講座腫瘍病理解分野 / 60歳代 / 男性 / 肺 / 右肺上葉の感染性嚢胞が疑われた症例 / Sacr, NOS

15-21: 池田 健, 辻脇光洋 / 函館五稜郭病院パソロジーセンター / 60歳代 / 男性 / 肺 / 前立腺癌の既往のある敗血症患者にみられた肺病変 / Pulmonary megakaryocytes

15-22: 岩崎沙理¹, 直 亨則¹, 佐藤寿高², 桑原博昭³, 仲川心平¹, 清水亜衣¹, 池田 仁¹, 鈴木 昭¹ / KKR札幌医療センター病理診断科, ²KKR札幌医療センター呼吸器内科, ³KKR札幌医療センター外科 / 60歳代 / 男性 / 高齢男性に発生し、特異な組織像を示した肺病変 / Pulmonary Langerhans cell histiocytosis

- 15-23: 立野正敏¹, 近江 亮², 金古裕之², 真木健裕², 青木直子³, 柳内充⁴ / ¹釧路日赤病院病理診断科, ²同外科, ³旭川医科大学病理学講座, ⁴市立札幌病院病理診断科 / 症例 1: 70 歳代, 症例 2: 60 歳代 / 男性 / 副腎, リンパ節 / 副腎腫瘍の 2 例 / 症例 1: Chronic expanding hematoma, 症例 2: Adrenal myelolipoma, 症例 2 のリンパ節: Splenosis
- 15-24: 田中進一郎, 鹿野 哲, 松田玲奈, 伊藤真理子, 八代真一, 佐々木豊 / 勤医協中央病院病理診断科 / 60 歳代 / 男 / 肺 / 粘液に富んだ肺腫瘍の一例 / Colloid adenocarcinoma of the lung
- 15-25: 桑原 健¹, 畑中佳奈子¹, 秦 洋郎², 伊藤祥太郎³, 長岡健太郎³, 三橋智子¹, 松野吉宏¹ / ¹北海道大学病院病理診断科, ²北海道大学病院皮膚科, ³北海道大学病院内科 I / 70 歳代 / 女性 / 臀部皮下 / 診断に苦慮した左臀部皮下結節の一例 / Mycobacterial spindle cell pseudotumor (M. kansasii)

集会では、北海道大学病院 内科 II 西尾妙織先生により「腎臓内科医と病理医の連携」と題する教育講演が行われました。

同日、平成 27 年度病理医会総会が行われました。

報告・承認事項

1. 代表者会議メンバーの決定について

池田 健 (函館五稜郭病院) 今村正克 (札幌診断病理学センター) 大内知之 (恵佑会札幌病院) 鹿野 哲 (勤医協中央病院) 菊地慶介 (帯広厚生病院) 小林博也 (旭川医科大学大学院免疫病理) 今 信一郎 (市立室蘭総合病院) 近藤信夫 (ジェネティックラボ病理解析センター) 鳥越俊彦 (札幌医科大学医学部第一病理) 澤田典均 (札幌医科大学医学部第二病理) 篠原敏也 (手稲溪仁会病院) 鈴木 昭 (KKR 札幌医療センター) 高桑康成 (NTT 東日本札幌病院) 高橋秀史 (北海道子ども総合医療・療育センター) 高橋達郎 (釧路労災病院) 高橋利幸 (北海道消化器科病院) 立野正敏 (釧路赤十字病院) 田中伸哉 (北海道大学大学院腫瘍病理) 外丸詩野 (北海道大学大学院分子病理) 西川祐司 (旭川医科大学大学院腫瘍病理) 長谷川匡 (札幌医科大学附属病院病理診断科) 深澤雄一郎 (市立札幌病院) 松野吉宏 (北海道大学病院病理診断科) 三代川齊之 (旭川医科大学病院病理部) 村岡俊二 (札幌厚生病院) 山城勝重 (北海道がんセンター)

以上 26 名

2. 新役員の決定について

北海道病理医会会長 (代表者)	長谷川匡
北海道病理医会副会長 (副代表)	鹿野 哲
標本交見会担当幹事	山城勝重
庶務・会計担当幹事	鈴木 昭
選挙管理委員	近藤信夫
監事	村岡俊二

3. 平成 28 年度 事業計画案について

1) 標本交見会

担当幹事: 北海道がんセンター 山城 勝重先生

会場: 北海道がんセンター・大講堂

日時:

第 175 回 6 月 18 日 (土)

ランチョンセミナー「骨髄病理診断セミナー」

名古屋第一赤十字病院 伊藤 雅文先生

第 176 回 9 月 24 日 (土)

特別講演「乳癌の病理診断 (仮)」

防衛医科大学校病態病理学 津田 均先生

第 177 回 12 月 10 日 (土) もしくは 12 月 17 日 (土)

第 178 回 3 月 11 日 (土)

バーチャルスライド協力:

北海道がんセンター 山城 勝重先生

平成 29 年度の担当幹事:

札幌医科大学医学部第一病理 鳥越 俊彦先生

2) 共催事業等

細胞診講習会 (日本臨床細胞学会北海道支部との共催)

11 月頃

Lymphoma Clinico-Pathology Conference (LCPC)

7 月, 2 月頃

3) 病理医会施設代表者会議

随時

4) 病理医会総会

定例 平成 29 年 3 月

--- 東北支部 ---

東北支部編集委員 長谷川 剛

第 82 回日本病理学会東北支部学術集会が、東北大学の良陵会館で平成 28 年 2 月 20, 21 日 (土, 日) に行われた。オープニングの教育講演, 夕刻からの若手育成講習会, 2 日目には特別講演と, 一般演題とともに充実した学術集会で, 懇親会を含め, 有意義に過ごした。

【教育講演】 橋本優子 福島県立医科大学医学部 病理病態診断学講座

「悪性リンパ腫病理診断入門」

【若手育成講習会】 赤平純一 仙台厚生病院 病理診断科

「ホルモン状態を考慮した子宮内膜の非腫瘍性病変の見方」

【特別講演】 近藤英作 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子細胞病理学分野

「腫瘍の性状を調べる分子病理学的アプローチ」～がんの弱点を洗い出せ!～

【一般演題】

1. 佐藤綾香, 他 岩手医科大学医学部病理診断学講座

直腸病変の 1 例 / Mass-forming endometriosis

2. 廣嶋優子, 他 秋田大学医学部附属病院病理診断科・病理部

多発性胃ポリープの 1 例 / Inflammatory fibroid polyp, Inflammatory myofibroblastic tumor, Myxofibrosarcoma

3. 江川明見, 他 山形県立中央病院初期研修医

腺腫瘍の 1 例 / Mixed acinar-neuroendocrine carcinoma

4. 柳川直樹, 他 山形県立中央病院病理診断科

髄膜腫瘍の 1 例 / Inflammatory pseudotumor

5. 黒瀬 顕, 他 弘前大学大学院医学研究科病理診断学講座

組織像と病理診断が乖離する Oligodendroglioma 形態を示す中枢神経腫瘍 / Anaplastic oligoastrocytoma (WHO 2007), Anaplastic astrocytoma (WHO 2016)

6. 川名 聡, 他 福島県立医科大学医学部病理病態診断学講座
左視床部脳腫瘍の1例 / Malignant lymphoma, Plasmablastic lymphoma
7. 橋立英樹, 他 新潟市民病院病理診断科
鼻腔腫瘍の1例 / Low-grade nonintestinal adenocarcinoma
8. 白濁 肇, 他 東北大学病院病理部
鼻腔腫瘍の1例 / Epithelial-myoepithelial carcinoma
9. 板倉裕子, 他 石巻赤十字病院病理科
肺腫瘍の1例 / Pulmonary blastoma
10. 立野絏雄, 他 日本病理研究所
稀な乳腺腫瘍の1例 / Mixed intraductal proliferative lesions, DCIS / LCIS
11. 坂元和宏, 他 大崎市民病院病理診断科
頸部リンパ節腫脹を初発症状として発症し, 多臓器に病変が認められた1例 / Rosai-Dorfman disease
12. 山田慈子, 他 いわき市立総合磐城共立病院研修医
卵巣腫瘍の1例 / Carcinoid tumor, mixed
13. 後藤悠輔, 他 みやぎ県南中核病院初期研修医
急性心筋梗塞に対する右冠動脈風船療法後に急性心不全で死亡した1例 /
14. 西浦継介, 他 福島県立医科大学医学部基礎病理学講座
統合失調症前頭前野の微小血管における PKA 活性の亢進と血液脳関門分子クローデイン-5 の選択的減少 (若手研究ポスター発表)
15. 薄田浩幸, 他 長岡赤十字病院病理診断部
後腹膜腫瘍の1例 / Granulomatosis with polyangiitis (Wegener 肉芽腫症)
16. 川崎 隆, 他 新潟県立がんセンター新潟病院病理部
多発性骨腫瘍の1例 / Histiocytic sarcoma
17. 高橋さつき, 他 秋田厚生連平鹿総合病院病理診断科
女性の恥骨部腫瘍 / Adenomatoid tumor の疑い
18. 佐藤次生, 他 弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座
多発性腹腔内腫瘍を呈した16歳男性の1例 /
Epithelioid inflammatory myofibroblastic sarcoma with ROS1 fusion
19. 工藤和洋, 他 弘前大学大学院医学研究科分子病態病理学講座
背部軟部腫瘍の針生検の1例 /
Dermatofibrosarcoma protuberans with neurofibromatous change
20. 玉澤暢之, 他 山形大学医学部病理診断学講座
尿管皮膚瘻に発生した悪性腫瘍の1例 / Extramammary Paget's disease
注) 一般演題は, 筆頭演者, 所属および演題名 / 演者診断の順

--- 関東支部 ---

第70回日本病理学会関東支部学術集会報告

群馬大学大学院医学系研究科病態病理学分野 横尾 英明

第70回日本病理学会関東支部学術集会は2016年3月12日(土), 群馬大学医学部基礎講堂にて開催され, 基調講演1題, 特別講演2題, 一般演題5題をご発表いただきました。当日は小雨のぱらつく肌寒い天候の中, 遠方での開催にも関わらず119名もの参加者にお集まりいただきました。

【基調講演】

講師: 中里洋一 (日高病院病理診断研究センター)

演題: 脳腫瘍病理学の潮流と今後の展望

座長: 柿田明美 (新潟大学脳研究所病理学分野)

【特別講演①】

講師: 伊古田勇人 (群馬大学大学院医学系研究科病態病理学分野)

演題: 脳腫瘍の術中迅速診断と免疫組織化学

座長: 柿田明美 (新潟大学脳研究所病理学分野)

【一般演題①】

座長: 信澤純人 (群馬大学大学院医学系研究科病態病理学分野)

1. 小児の大脳鎌に発生した Ossifying fibromyxoid tumor と考えられた1例
蘆澤健太郎 (自治医科大学病理診断部) ほか
2. 特徴的な組織像を伴った鼻腔奇形癌肉腫の一例
川井田みほ (慶應義塾大学医学部病理学教室) ほか

【特別講演②】

講師: 柴原純二 (東京大学大学院医学系研究科人体病理学・病理診断学)

演題: グリオーマの病理診断

座長: 平戸純子 (群馬大学医学部附属病院病理部)

【一般演題②】

座長: 石澤圭介 (埼玉医科大学医学部病理学/中央病理診断科)

3. 非機能性下垂体腺腫が疑われた腺性下垂体紡錘形細胞オンコサイトー
マの1例
伊藤慎治 (国家公務員共済組合連合会虎の門病院病理診断科) ほか
4. 若年者の視床に発生した high grade glioma の一例
中田 聡 (群馬大学大学院医学系研究科病態病理学) ほか
5. 若年者の大脳半球に発生した類円形の上皮様細胞からなる high grade
glioma の一例
松村 望 (群馬大学大学院医学系研究科病態病理学) ほか

--- 中部支部 ---

中部支部編集委員 浦野 誠

第76回日本病理学会中部支部交見会

2015年12月19日(土)

会場: 愛知学院大学

世話人: 愛知学院大学口腔病理学 前田初彦先生

参加人数: 214名

【症例検討】

1360 名古屋第二赤十字病院 村瀬陽太

70代 男性 腎 Collision tumor (Clear cell renal cell carcinoma and plasmacytoma)

腎淡明細胞癌内に monoclonality を有する形質細胞が浸潤しており, 衝突腫瘍とされた症例。形質細胞の核異型を詳細に観察する必要が示された。

1361 中京病院 服部行紀

70代 女性 胃 Hyperplastic fundic gland polyp with dysplasia

粘膜表層に異型腺管を認める胃底腺型ポリープ。散発例と家族性大腸腺腫症例における臨床病理学的な相違が示された。

1362 藤田保健衛生大学病院 桐山論和

40代 女性 大腸 Malignant gastrointestinal neuroectodermal tumor

小円形～上皮様形態を示した粘膜下腫瘍像。様々な鑑別診断が考慮されたが, EWSR1-ATF1 融合遺伝子を確認し, 確定診断にいたった。

1363 大同病院 小島伊織

40代 女性 肝 Lymphoproliferative disorder, unclassified

悪性リンパ腫とする投票が多かったが T 細胞遺伝子再構成が確認できなかった。炎症性偽腫瘍様濾胞樹状細胞腫瘍が鑑別に考慮された。

1364 公立陶生病院 金山知弘

60代 男性 胆嚢 Gastric heterotopia of the gallbladder

詳細な免疫染色の検討と文献的考察がなされた。腺腫の合併の有無につ

- いて討論があった。
- 1365 福井大学病院 小上英也
70代 男性 胆管 Large cell neuroendocrine carcinoma and adenocarcinoma
上皮内腺癌に加えて浸潤性 LCNEC 成分がみられ、後者が大部分を占めていた胆管癌例。腺癌成分との関連、組織発生について議論がなされた。
- 1366 富山市民病院, 金沢医科大学 中田聡子
60代後半 男性 睪 Desmoid type fibromatosis
嚢胞状変化を伴う充実性病変で画像診断では浸潤が疑われていた。 β -catenin, 平滑筋アクチン陽性が示された。IPMA との関連が討論となった。
- 1367 金沢医療センター 川島篤弘
40代前半 女性 後腹膜 Mature teratoma with duplication cyst-like element
正常の腸管構造を有する巨大な後腹膜腫瘍。奇形腫由来か重複腸管かの討論がなされた。後腹膜に発生する嚢胞性病変についての考察が示された。
- 1368 市立砺波総合病院 奥野のり子
80代 女性 甲状腺 Small cell carcinoma ex intrathyroidal thymoma
長期の経過を経て甲状腺内異所性胸腺腫を背景に生じた小細胞癌と考えられた症例。
- 1369 愛知県がんセンター中央病院 近藤千晶
60代 女性 甲状腺 Metastasizing goiter or extremely well differentiated follicular carcinoma
診断の難しい症例であったが RAS 遺伝子変異が示され、超高分化な濾胞癌の肝転移の可能性が考えられた。
- 1370 静岡県立静岡がんセンター 草深公秀
60代前半 男性 下顎 Clear cell odontogenic carcinoma
生検と手術材料の組織像に乖離があった症例。淡明細胞からなる顎骨内腫瘍の鑑別が討論になった。
- 1371 諏訪赤十字病院 神宮邦彦
50代 女性 唾液腺 Mucoepidermoid carcinoma, low grade
腺腔形成, 分泌像が目立ち, 乳腺相似分泌癌との鑑別を要した粘表皮癌例。CRTC1-MAML2 融合遺伝子が確認された。
- 1372 松波総合病院 濱保英樹
60代 男性 血管 Epithelioid hemangi endothelioma
鎖骨下静脈に発生した類上皮血管内皮腫瘍。悪性度についての討論がなされた。
- 1373 聖霊浜松病院 新井義文
40代 男性 胸壁 Extra-axial chordoma
非正中線および軟部発生 of 脊索腫についての文献的考察, brachyury の有用性が示された。
- 1374 名古屋市立大学病院 村瀬貴幸
10代前半 男性 気管 Mucoepidermoid carcinoma, clear cell variant
気管内に突出する淡明細胞性腫瘍で CRTC1-MAML2 融合遺伝子示された。粘表皮癌の grading についての討論がなされた。
- 1375 佐久総合病院佐久医療センター 塩澤 哲
40代前半 男性 肺 Pulmonary placental transmogrification
胎盤絨毛に類似する組織像を呈したまれな肺内腫瘍性病変。間質の CD10 陽性細胞との関係や bulla との関連についての文献的考察がなされた。
- 1376 聖霊三方原病院 八木春奈
20代前半 女性 脳 Chordoid glioma of the third ventricle
鞍上部に発生した症例で TTF-1 陽性所見が示され, basal forebrain に由来するとされる文献的考察がなされた。
- 1377 信州大学医学部附属病院 佐藤 碧
80代 女性 大脳 Cryptococcal choroid plexitis
透析患者に発生し, 側脳室脈絡叢生検にて診断した *C. neoformans* 感染症例。臨床診断が難しく, 病理組織診断の重要性が示された。投票結果は一致していた。
- 1378 藤田保健衛生大学病院 安倍雅人
50代 女性 大脳 Paraneoplastic extralimbic encephalopathy associated with thymoma
特徴的な Creutzfeldt astrocyte 像や生検における脱髄疾患, gliomatosis cerebri との鑑別の重要性が示された。
- 1379 岐阜大学医学部附属病院 川島啓佑
60代 男性 皮膚 Carcinosarcoma
悪性リンパ腫の既往歴がある患者の植皮後の皮膚に生じた癌肉腫例。造血器腫瘍と皮膚悪性腫瘍との関連についての考察がなされた。
- 1380 西尾市民病院 伊藤真文
60代後半 男性 腸間膜 Dedifferentiated liposarcoma
腸間膜発生の脂肪肉腫例で, MFH および骨肉腫像を脱分化成分としていた。Meningothelial-like whorl の形成が特徴的であった。
- 1381 三重大学病院 古橋直樹
20代後半 女性 子宮 Low grade endometrial stromal tumor with sex cord-like element (ETSACLE)
鑑別に挙げられた Uterine tumor resembling ovarian sex cord tumors (UTROSCT) との組織像, 免疫染色, 遺伝子変異の相違が示された。

【中部支部学術奨励賞受賞式】

学術奨励賞 カテゴリー A (専門医試験合格前)

中川 満先生 (藤田保健衛生大学)

杉山誠治先生 (木沢記念病院)

藤原雅也先生 (三重大学)

学術奨励優秀発表賞

野本一博先生 (厚生連高岡病院)

内山明央先生 (富山県立中央病院)

武内勝章先生 (岐阜大学)

平成 27 年度日本病理学会ハンガリー病理解剖トレーニング
コース参加報告

大同病院 小島伊織先生, 公立陶生病院 滝 哲郎先生

2名の先生による体験報告がなされ, 今後参加を希望する病理専攻医に有用な情報が提供されました。

次回学術集会

第 77 回日本病理学会中部支部交見会

2016 年 7 月 2 日 (土), 3 日 (日)

会場: 三重大学

世話人: 小塚祐司先生 (三重大学)

「夏の学校」2016 in 岐阜

2016 年 8 月 20 日 (土), 21 日 (日)

会場: 岐阜市

世話人: 宮崎龍彦先生

原 明先生

竹内 保先生 (岐阜大学)

-- 近畿支部 -----

近畿支部編集委員 桑江 優子

I. 活動報告

第 72 回日本病理学会近畿支部学術集会在下記の内容で開催されました。

(検討症例, 画像等につきましては近畿支部 HP にて閲覧可能です。パスワードの必要な方は事務局までお尋ね下さい)

日本病理学会近畿支部第 72 回学術集会

2 月 6 日 (土)

於: 大阪市立大学

世話人: 奈良県立医科大学 大林 千穂先生

モデレーター: 兵庫医科大学 清水 重喜先生

テーマ: 肺疾患

症例検討

座長: 栗栖 義賢先生 (大阪医科大学)

877 胃間葉系由来の腫瘍を疑った 1 例

鷹巣 晃昌先生, 他 (兵庫県立尼崎総合医療センター 病理診断科)

878 胃壁腫瘍の 1 例

奥野 高裕先生, 他 (大阪市立総合医療センター 病理診断科)

879 肺腫瘍の一例

松岡 亮介先生, 他 (神戸市立医療センター中央市民病院 臨床病理科, 他)

特別講演 1

『肺癌の 2015 WHO 新病理分類』

谷田部 恭先生 (愛知県がんセンター)

特別講演 2

『特発性間質性肺炎 (IIPs) と特発性肺線維症 (IPF/UIP) の病理所見と診断について: 1975 年から 2015 年の自験例から』

北市 正則先生 (南和歌山医療センター)

病理講習会:

1. 「肺腫瘍性病変の診断 — 生検検体での免疫染色を中心に —」
城光寺 龍先生 (日生病院)
2. 「TBLB の現状 — びまん性肺疾患の診断がどこまで可能か —」
本庄 原先生 (天理よろづ相談所病院)
3. 「Combined pulmonary fibrosis and emphysema (CPFE) と肺癌」
吉澤 明彦先生 (京都大学医学部附属病院)

II. 今後の活動予定

第 73 回学術集会 (2016 年 6 月 25 日)

開催場所: 兵庫医科大学

テーマ: 乳腺疾患

-- 中国・四国支部 -----

中国・四国支部編集委員 串田 吉生

A. 開催報告

1. 第 119 回学術集会

開催日: 平成 28 年 2 月 6 日 (土)

場所: 岡山大学医学部 J ホール

世話人: 岡山市立市民病院 小田和歌子先生

一般演題 21 題が集まり, 活発な討議が行われました。発表スライドや投票結果は (<http://csp.umin.ne.jp/pctindex.htm>) から見る事が出来ます。

また, 自治医科大学附属病院病理診断部・教授 福嶋 敬宜先生による特別講演『脾臓病変の病理診断 — 脾癌取扱い規約改訂の最新情報も含めて』も行われました。

演題番号 / タイトル / 出題者 (所属) / 出題者診断 / 最多投票診断

S2599 / 回腸腫瘍 / 柿崎元恒 (広島鉄道病院初期研修医) /

Schwannoma / concord

S2600 / 回腸粘膜下腫瘍 / 村田紘子 (高知赤十字病院初期研修医) /

Gastrointestinal stromal tumor / concord

S2601 / 腸重積 / 原田美沙 (山口大学医学部医学科 4 年生) / Polypoid vascular and lymphatic malformation / Colonic mucosal submucosal elongated polyp

S2602 / 胃噴門部腫瘍 / 高見咲 (鳥根大学医学部附属病院病理部) /

EB virus associated adenocarcinoma / Neuroendocrine tumor

S2603 / 右卵巣腫瘍 / 太田陽子 (岡山大学医歯薬学総合研究科病理 [免疫]) / Sex cord tumor with annular tubules / concord

S2604 / 腎腫瘍 / 本間りりの (広島大学医学部医学科 4 年生) /

Renal small cell oncocyoma with pseudorosettes / Oncocyoma

S2605 / 肝腫瘍 / 田中顕之 (岡山大学病院病理診断科) / Intraductal neoplasm of intrahepatic bile duct, unclassified / Intraductal papillary neoplasm of bile duct

S2606 / 十二指腸乳頭腫瘍 / 寺田和弘 (倉敷中央病院病理検査科) /

Undifferentiated carcinoma with osteoclast-like giant cells / concord

S2607 / 脳腫瘍 / アマティア・ヴィシユワ・ジート (広島大学医歯薬保健学研究院病理学) / Papillary meningioma / concord

S2608 / 肺結節 / 能登原憲司 (倉敷中央病院病理検査科) /

Rheumatoid nodule / concord

S2609 / 胸壁腫瘍 / 谷山大樹 (呉医療センター・中国がんセンター病理診断科) / Epithelioid sarcoma-like hemangioendothelioma / Malignant mesothelioma

S2610 / 後縦隔腫瘍 / 野坂加苗 (鳥取大学医学部器官病理学) /

Mullerian cyst / concord

S2611 / 耳下腺腫瘍 / 頼田顕辞 (高知赤十字病院病理診断科) / Epithelial-myoeplithelial carcinoma with high grade transformation + oncocytosis, focal / Epithelial-myoeplithelial carcinoma

S2612 / 甲状腺腫瘍 / 木村修士 (広島大学病院病理診断科) /

Papillary carcinoma, cribriform-morula variant / concord

S2613 / 唾液腺腫瘍 / 都地友紘 (岡山医療センター臨床検査科病理) /

Salivary duct carcinoma, mucin-rich variant / Mucinous adenocarcinoma

S2614 / 鼻腔腫瘍 / 板倉淳哉 (倉敷中央病院病理検査科) / Thyroid-like low-grade nasopharyngeal papillary adenocarcinoma / Adenocarcinoma

S2615 / 口蓋腫瘍 / 小川郁子 (広島大学病院口腔検査センター) /

Mucoepidermoid carcinoma, clear cell variant / Mucoepidermoid carcinoma

S2616 / 足底軟部腫瘍 / 石川亮 (香川大学医学部附属病院病理部) /

Myoeplithelioma / Synovial sarcoma

S2617 / 骨腫瘍 / 西田賢司 (岡山大学医歯薬学総合研究科病理 [腫瘍]) / Phosphaturic mesenchymal tumor / concord

S2618 / 皮膚腫瘍 / 谷口恒平 (岡山大学病院病理診断科) / malignant transformation of trichoblastoma in multiple familial trichoepithelioma / Basal cell carcinoma

S2619 / 頭部皮膚腫瘍 / 木村徳宏 (山口大学大学院医学系研究科病理形態学) / Papillary hemangioma / Hemangioma

B. 開催予定

1. 第 120 回学術集会

開催日：平成 28 年 6 月 26 日（日）

場所：香川大学医学部臨床講義棟 2 階

世話人：香川大学医学部炎症病理学 上野正樹教授

-- 九州・沖縄支部 -----

九州沖縄支部編集委員 大石 善丈

第 349 回九州・沖縄スライドコンファレンスが下記のように開催されました。

日時：平成 28 年 1 月 30 日

場所：製鉄記念八幡病院 第 1 会議室

世話人：製鉄記念八幡病院病理診断科 下釜 達朗先生

参加人数：128 名

同日九州沖縄スライドコンファレンスの半ばで以下の学術講演が行われた。

演題：「副腎腫瘍の病理」

演者：東北大学大学院医学系研究科 病理診断学

笹野 公伸教授

（座長 長崎原爆病院病理 重松和人先生）

発表者 / 発表者の所属 / 症例の年齢 / 症例の性別 / 臓器名 / 臨床診断あるいは発表演題名 / 発表者の病理診断 / 討論後の病理診断 / 最多投票診断名

座長：田宮貞史（北九州市立医療センター）

- 1. 半田瑞樹 / 製鉄記念八幡病院病理診断科 / 76 / 男性 / 頸部 / 頸部腫瘍 / Parathyroid carcinoma / Parathyroid carcinoma / Parathyroid carcinoma
- 2. 霧島茉莉-東美智代 / 鹿児島大学病理学分野 / 40 代 / 男性 / 頸部 / 頸部腫瘍 / Carotid body paraganglioma / Carotid body paraganglioma / paraganglioma

座長：本田由美（熊本大学病院病理部）

- 3. 安里嗣晴 / 熊本大学医学部附属病院病理診断科 / 35 / 男性 / 左肺 / 左肺上葉腫瘍 / Mature teratoma, lung origin / Mature teratoma, lung origin / Mature teratoma
- 4. 樋田知之 / 福岡大学医学部病理学講座 / 30 代 / 女性 / 肺 / 肺病変 / Pulmonary Langerhans cell histiocytosis / Pulmonary Langerhans cell histiocytosis / Pulmonary Langerhans cell histiocytosis

座長：東美智代（鹿児島大学病院病理部）

- 5. 原岡誠司 / 福岡大学筑紫病院 / 82 / 男性 / 胃 / 胃腫瘍 / G-CSF producing undifferentiated high-grade pleomorphic sarcoma of the stomach / G-CSF producing undifferentiated high-grade pleomorphic sarcoma of the stomach / Leiomyosarcoma Sarcomatoid carcinoma Undifferentiated carcinoma
- 6. 大西紘二 / 熊本大学細胞病理 / 70 代 / 男性 / 胃 / 胃腫瘍 / Collision tumor, GIST and gastric adenocarcinoma / Collision tumor, GIST and gastric adenocarcinoma / adenocarcinoma

座長：松山篤二（産業医大 2 病理）

- 7. 林 洋子 / 長崎大学大学院病理学 / 70 代 / 女性 / S 状結腸 / S 状結腸腫瘍 / Dome-type / Gut-associated lymphoid tissue carcinoma / Dome-type / Gut-associated lymphoid tissue carcinoma / adenocarcinoma

- 8. 原藤優佳-田中弘之 / 宮崎大学医学部病理学講座腫瘍・再生病態学分野 / 25 / 男性 / 腓尾部 / 腓尾部腫瘍 / Mature (cystic) teratoma with AVM of the pancreas / Mature (cystic) teratoma with AVM of the pancreas / Mature (cystic) teratoma

座長：林 洋子（長崎大学 1 病理）

- 9. 吉河康二-武内秀也 / 別府医療センター病理診断科 / 50 代 / 女性 / 乳腺 / 乳腺腫瘍 / Granular cell tumor / Granular cell tumor / Granular cell tumor
- 10. 山地康大朗-甲斐敬太 / 佐賀大学病因病態科学診断病理学分野 / 61 / 女性 / 乳腺 / 乳腺腫瘍 / Tubular carcinoma / Tubular carcinoma / Tubular carcinoma
- 11. 森 大輔 / 佐賀県医療センター好生館病理部 / 71 / 女性 / 乳腺 / 乳腺腫瘍 / Mucoepidermoid carcinoma / Mucoepidermoid carcinoma / Mucoepidermoid carcinoma

座長：山崎文朗（佐賀中部病院）

- 12. 佐藤勇一郎 / 宮崎大学病理診断科 / 66 / 女性 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Mixed tumor (clear cell carcinoma and borderline seromucinous tumor) in endometriotic cyst / Mixed tumor (clear cell carcinoma and borderline seromucinous tumor) in endometriotic cyst / Seromucinous carcinoma
- 13. 松田勝也-中島正洋 / 長崎大学原研病理 / 44 / 女性 / 卵巣 / 卵巣腫瘍 / Mitotically active cellular fibroma / Mitotically active cellular fibroma / granulosa cell tumor

座長：丸塚浩助（県立宮崎病院）

- 14. 荒金茂樹 / 大分大学医学部診断病理学講座 / 80 代 / 女性 / 膀胱 / 膀胱腫瘍 / Mixed malignant melanoma and urothelial carcinoma / Mixed malignant melanoma and urothelial carcinoma / Urothelial carcinoma with neuroendocrine differentiation
- 15. 小山雄三 / 大分大学医学部診断病理学講座 / 85 / 女性 / 頸部皮膚 / 頸部皮膚腫瘍 / Langerhans cell sarcoma / Langerhans cell sarcoma / Atypical fibroxanthoma Malignant melanoma

座長：駄阿勉（大分大学診断病理）

- 16. 丸塚浩助 / 宮崎県立宮崎病院病理診断科 / 80 代 / 女性 / 左肩甲骨下皮下 / 左肩甲骨下皮下腫瘍 / Elastofibrolipoma / Elastofibrolipoma / Elastofibroma dorsii
- 17. 北菌育美 / 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科病理学分野 / 26 / 男性 / 皮膚 / 皮膚腫瘍 / Nevus cell nevus with cutaneous neurocristic hamartoma / Nevus cell nevus with cutaneous neurocristic hamartoma / Neurofibroma
- 18. 伊東孝通 / 九州大学形態機能病理学 / 50 / 男性 / 皮膚 / 皮膚腫瘍 / Digital papillary adenocarcinoma / Digital papillary adenocarcinoma / Digital papillary adenocarcinoma

=====

病理専門医部会会報は、関連の各種業務委員会の報告、各支部の活動状況、その他交流のための話題や会員の声などで構成しております。皆様からの原稿も受け付けておりますので、日本病理学会事務局付で、E-mail などで御投稿下さい。病理専門医部会会報編集委員会：村田哲也（委員長）、望月 眞（副委員長）、深澤雄一郎（北海道支部）、長谷川剛（東北支部）、九島巳樹（関東支部）、浦野 誠（中部支部）、桑江優子（近畿支部）、串田吉生（中国四国支部）、大石善丈（九州沖縄支部）

=====